

2024 年第 45 週の報告です。

京都府の手足口病の定点当り報告数は今週 3.55 まで減少しました。しかしながら、全国とともに警報レベルは継続しており、府内の保健所別でも先週の警報レベルの地域すべてで警報レベルが継続しています。山城北の咽頭結膜熱も警報レベルが継続中です。眼科定点では流行性角結膜炎が 6 件、基幹定点ではマイコプラズマ肺炎が 30 件報告されています。

全数報告対象の感染症は、2 類は結核が 5 件、3 類は腸管出血性大腸菌感染症が 2 件、4 類はデング熱が 1 件、5 類ではカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症・侵襲性肺炎球菌感染症の 2 疾患でそれぞれ 3 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症・梅毒・百日咳の 3 疾患でそれぞれ 1 件の報告がありました。

侵襲性肺炎球菌感染症(IPD)の原因となる肺炎球菌は乳幼児が高頻度に鼻咽頭に保菌しており、小児や成人に中耳炎や副鼻腔炎、肺炎などを引き起こします。菌が血液・髄液などの無菌部位に侵入し菌血症や髄膜炎などを引き起こすと IPD と診断され、患者の 7 割近くが 65 歳以上の方ですが、小児（特に 0 歳児）でもリスクが高い疾患です。IPD はワクチン接種により 4 割程度予防することができます。ワクチンは主に 65 歳の方への定期接種(公費負担あり)で用いられる 23 価ワクチンと主に小児の定期接種で用いられる 20 価/15 価ワクチンがあります。20 価/15 価ワクチンは標準的には生後 2 か月から計 4 回接種することで、終生免疫が獲得できるとされています。65 歳以上の方も 20 価/15 価ワクチンを接種できますが、現時点では全額自己負担です。23 価ワクチンはリスクの高い方は 5 年ごとの追加接種を行う場合もあります（2 回目以降は全額自己負担）。詳細についてはかかりつけ医にご相談下さい。

ワクチンについてより詳細な情報が欲しい場合はこちらをご参照ください。

▶一般の方：<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001086212.pdf>

▶医療関係の方：65 歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方（第 4 版 2023 年 3 月 24 日）（jrs.or.jp）
https://www.jrs.or.jp/activities/guidelines/file/haien_kangae2023.pdf